

Windows10 タブレット PC の有効活用について

川喜田 多佳子

高田短期大学キャリア育成学科

1. はじめに

28年度、本学ではタブレット PC の活用に向け、学生と教員の双方に有益となる取り組みが求められている。今やパソコンは日常生活での主要機器となっている。様々な場所で Wi-Fi でのインターネット接続環境が急激に整えられたことにより、元々高度で多くの機能を有していたパソコンが果たす役割は計り知れないものとなった。10～20 代の若者はスマートフォン中心の世代となり、40 代以上の世代についてはここ 1、2 年でスマートフォン導入数が少しずつ増加してきた、という温度差がある状況である。総務省の「平成 26 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査結果」¹⁾は、タブレット端末を利用する人の割合が、スマートフォンに比べれば鈍いものの増加傾向にある。また、Yahoo リサーチが 10 代から 60 代に行った「タブレット利用調査結果」²⁾によると、利用場所や利用目的は年齢の違いから見ても大きな違いがないという興味深い結果が報告されている。

多くの学校や企業では、主として Windows パソコンが備え付けられ利用されている。短期大学で求められるスキルは、卒業後就業先で即戦力となるパソコンスキルである。就業先では画面の前に座り、キーボード操作での書類作成・整理業務が主な業務である。本学での情報科目は、パソコン教室に設置したデスクトップパソコンを使い、学科・コースの学生に合わせたカリキュラム編成で授業を行っている。また筆者は、図書館ラーニングコモンズで IT コンシェルジュも兼務し、指定の曜日時刻に常駐するサポート体制がある。在学生、教職員、卒業生、そしてキャリア研究センター主催の就業支援セミナー開催など地域の方へのサポートを行いながら情報収集をし、そこで得た情報を学科・コースの学生の出口に合わせた授業カリキュラムに還元している。

タブレット PC 活用のスキルは、販売・営業業務にも有効である。学修や個人の課外活動、仕事に生かせる指導の工夫や留意点とともに、電子資料作成のためのアプリケーションの利用について調査し報告する。

2. 調査方法

本学の学内ネットワーク環境において、Windows10 搭載のノートパソコン 2 台を使用し、動作確認した。

・A 社 タッチパネル式 ノート PC CPU:Core i7 4720HQ、メモリ : 16GB

(ビルド 10240) バージョンタッチ確認用

・B 社 ノート PC CPU:Celeron (R) CPU1005M1.9GH メモリ : 4GB

バージョン 1511 (OS ビルド 10586.104) マウス通常操作確認用

3. Windows10 について

・クイックアクセスエクスプローラー

パソコン初学者にとって、ファイルとフォルダ、ドライブの階層構造は未知の領域のようである。アプリケーションソフトの習熟より理解に時間がかかる。自分がどこにファイルを保存したのかがわからない、という問題が多く発生する。

Office ソフトを始め、近年は作業履歴表示が充実され、初学者のみならず一般ユーザーの作業効率も上がっている。

Windows10 では、エクスプローラーを表示させると、「クイックアクセス」という状態のウィンドウの下半分が「最近使用したファイル」として、ファイルの種類を問わず、履歴表示されるので迷うことなく作業途中のファイルを開いて作業することが可能となった。ただし、学内ネットワークドライブにあるファイルも当然表示されているので、学内ネットワーク環境について、早い時期に理解してもらうための指導法に工夫も必要となる。

・アクションセンター

Windows8 から搭載された「チャーム」が廃止され、コンピュータの詳細設定を行うための画面、「アクションセンター」が搭載された。よく使う設定項目が大きく表示され、タブレットでのタップ操作が容易になっている。必要な時にユーザーにより表示される仕組みなのでチャームのようにむやみに表示されることはなく、使用感にもストレスを感じないものであった。スマートフォンを意識したデザインであるため、初学者の学生でも直感的な操作でタブレットのカスタマイズ操作への期待が持てる。

4. 授業での有効活用について

・電子出版ソフト メディアブックパブリッシャー

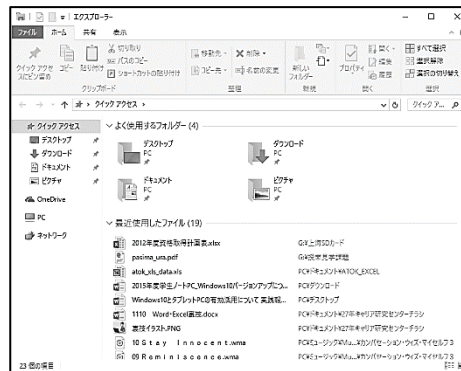


図 1 クイックアクセスエクスプローラー

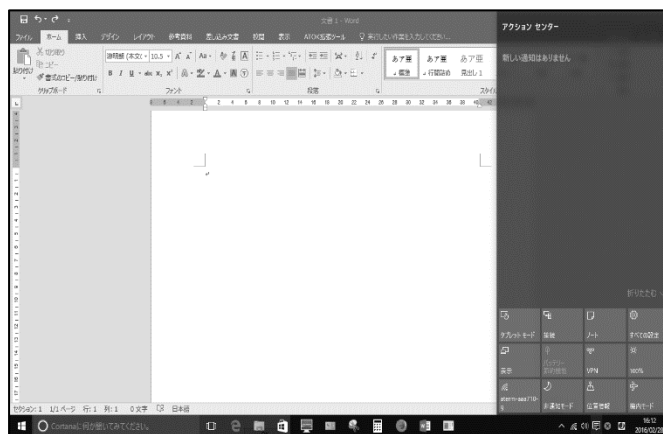


図 2 アクションセンター (画面右)

学生への教材配布にはOfficeソフトからダイレクト変換のできるPDFファイルを学内ネットワークの配布フォルダを使って配布できるが、電子書籍のような指を使ったページ

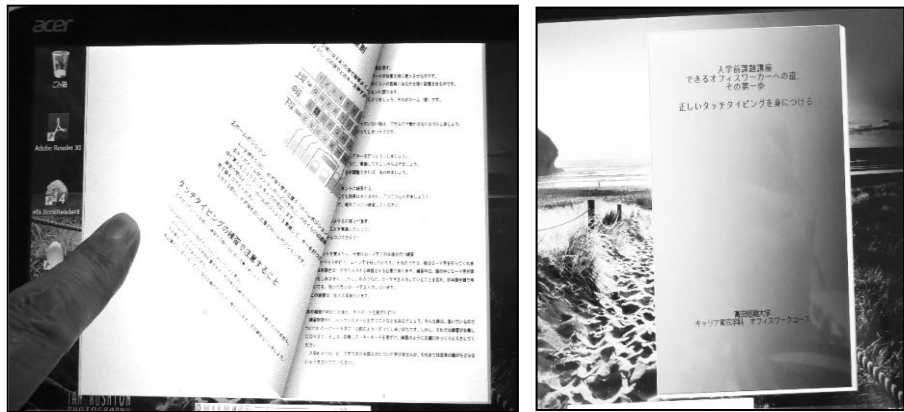


図 3 メディアブック形式の電子ブック

めくりが可能となるファイル作成ができるシ

ーサイドソフト社のフリーソフト、「メディアブックパブリッシャー」³が容易な操作で様々な形式の電子ブック作成が可能であった。出力形式は、独自の電子ブックと ePub 形式、Webブック形式と十分な機能を備えており、作成した電子書籍は商用も可能となっている。ただし今回確認のために作成した資料では、A4版8枚で9MBとファイルサイズが大きくなってしまった。今後ソフトウェアの特性をさらに研究していく必要がある。オフィスワークコース2年次後期に開講する授業、「コンテンツデザイン」では本ソフトでの電子ブック制作をカリキュラムにしている。マニュアルもすべてシーサイドソフト社のWeb上にあるため、学生は細かな内容を自ら調べなければならない。操作も多岐にわたるので、パソコン教室周りのリソースをフル活用してグループで作品作りから発表する展開にすることもできる。

・新ブラウザ Microsoft Edge

Windows10から新しいブラウザ、Microsoft Edgeが搭載されている。シンプルな操作性と軽快な動作はスマートフォンになれている学生達の活用頻度に期待が持てる。操作ボタンも「ハブ」と呼ばれるハンバーガーデザインのボタンに機能が集約されており、スマートフォンと同様のブラウジングが可能である。



図 4 Edge 画面書き込みの Twitter 連携画面

Edgeでは、画面書き込み機能を備えている。授業などで学生が、パソコンの画面をスマートフォンのカメラアプリで撮影してメモ代わりにする姿をよくみかけるが、Edgeの書き込み機能を利用すれば、書き込んだ画面をEdge内に、リ

ーディングテキストと呼ばれるノートのような形式で保存したり、Twitter と連携して友人と共有することもできる。欠席の友人に課題の詳細を知らせるなど、有用な SNS 活用につなげることができる。

5. 課外での有効活用について

・Cortana(コルタナ)

コルタナは音声認識などを使ったパーソナルアシスタントである。27年11月、初めてのリリースされたメジャーアップデートプログラムにより使用可能となった。Edge やカレンダー、SNS などと連携が可能となっており、音声で「コルタナさん」と話しかけると「はい、コルタナです」という声とともに起動する。任意のユーザー名を登録すれば、その名前呼びかけもしてくれる。音声入力がない環境ではタップして起動させることも可能である。筆者は学生に有用である言葉をいくつか話してみた。「高田短期大学」、「天気を教えて」、「地震」、「今日のスケジュールは」などの日常会話の定型表現には問題なく認識し、「三重県では体を感じる地震は起きていません」などの音声回答が画面と共に返された。「高短キャンパスネット」、「キャリア研究センター」など、固有名詞に対する認識は難しい結果となった。しかしコルタナは、他社音声認識サービスが持たない、学習機能が働く仕組みとなっている。活用頻度を上げることにより、その効果が期待される。なお、コルタナの検索エンジンは Bing に依存している。Google などのスケジュールや電子メール、スマートフォンとの連携利用には、Microsoft アカウントを利用し、Windows 付属のカレンダーや OneDrive の設定をする必要がある。学生が利用する際には確実に取扱いを行うよう、注意喚起する必要がある。

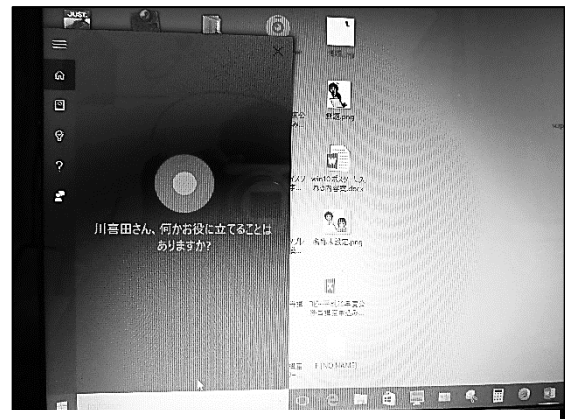


図 5 コルタナの起動画面

6. おわりに

Windows10 は今後、これまでのような次期バージョンを発表せず、新機能をアップデートにより提供していくとされている。本稿調査中にも筆者のノートパソコンにアップデートプログラムが提供された。今後、学生のタブレット PC にも同様なアクションがあり、次々と新しい機能が提供されていく状況の確認もすることができた。その様子はこれまでのようにバックグラウンドでひっそりと提供されるのではなく、新 OS のアップグレード規模の動作であった。また、調査機 B においてはアップデート後の動作が不安であった。原因不明のログインパスワード拒否症状となり、これ以上の動作確認が不可能になるという現象をおこした。これまでとは異なるサービス提供がされていく Windows10 の技術的な部分と、機種固有で起こる現象も未知な部分がある。これらの問題に関しては、本学の情報管理担当者からの情報を得ながら、学生や教員に有益な情報提供を行っていくことも求められるであろう。

Windows10 タブレット PC での運用はこれからとなる。新年度、筆者が担当するすべての科目において、タブレット用教材や、学生のタブレット PC 利活用向上に向けたカリキュラムを実施した上で、問題、改善点を洗い出しながらよりよい活用法を作り上げていきたい。そのためには、スマートフォンと差別化を図ることが重要である。たとえばインターネットサービスの利用や情報収集、ストアアプリ

活用レベルであれば、パソコンの経験値が少ない学生でも直感的にタブレットを使いこなすことができるだろう。しかしそれらの作業はスマートフォンで事欠かぬだけの機能をもっている。そのためタブレット使用の頻度は低くなり、「パソコン (Windows) がわからない」という結果⁴となる。しかしデスクトップやノートパソコンより起動が速く、スマートフォンと同様、直感的な操作で Windows OS が動作するのはタブレットの大きな魅力である。反面、ワープロやプレゼンテーション作成など、Office ソフトでの制作作業がしづらいのも否めない。その点は、学内 PC 教室や図書館などに設置されたデスクトップをうまく使い分けていくことによって、Windows の理解も高まり、よい効果がでることを期待している。図書館で行っている IT コンシェルジュとして、できるだけ経験値を増やしてもらえるアドバイスを行い、教員間の連携を密にとりながら様々な授業活用とリンクさせていけるよう、柔軟な対応をしていきたい。短大生活の中で学生が能動的に、タブレット PC がスマートフォンと差別化できる有用な個人ツールであると実感してもらいたい。また、使いこなせるようになることが身につけていなければならないスキルであるという意識を持ってもらわなければならない。Windows タブレットの導入により、Windows OS の理解も深まるであろうと筆者は考える。個人ツール、業務ツールとして有意義な活用に向けた調査研究を継続していきたい。

注

¹ 総務省 2016 『情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査』

² ヤフー株式会社 2013 『年代別タブレット利用動向調査 2013』
http://promotionalads.yahoo.co.jp/online/blog/market/pdfs/whitepaper_tablet_research_age.pdf

³ シーサイドソフト社公式サイト
<http://www.seasidesoft.net/index.html>

⁴ 川喜田多佳子 2015 『スマートフォン世代におけるパソコンスキルの重要性』高田短期大学キャリア研究センター紀要・年報 創刊号 p43